

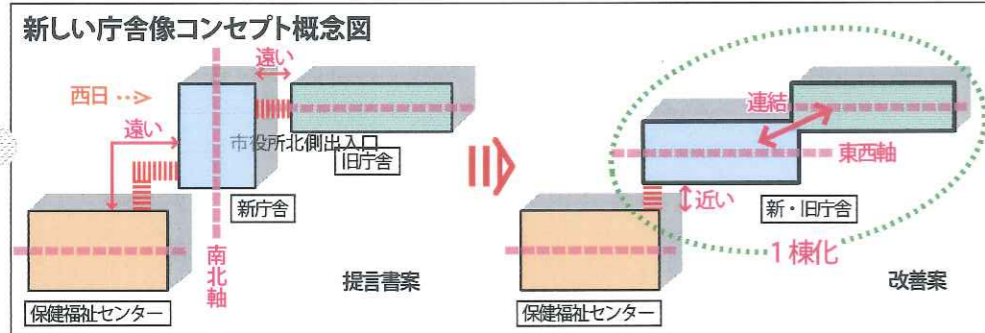
望ましい庁舎像の具現化～基本方針

白井市のシンボルであり市民の「人・暮らし・命」を守るための拠り所となる市役所づくり(提言書より)～以下の3つのテーマを設定し、提言書及び庁内検討委員会第1次報告書に基づく減築+新築案の望ましい庁舎像の具体的提案を行います。

提案1. サービスを受けやすく働きやすい環境づくり～「減築+新築=1棟」の提案
「わかりやすい」: 市民にとって利用しやすく、居心地が良い環境
「使いやすい」: 市民サービスの向上につながる働きやすい環境
建物の1棟化による「わかりやすく」「使いやすい」庁舎の提案です。

提案2. 市民の生活を支えるロングライフ庁舎～コストパフォーマンス重視
コンパクトでシンプルな建築計画と省エネルギーで維持管理しやすい施設設計。LCCを考慮し、いつまでも市民生活を支え続ける長寿命建築を目指します。

提案3. 誰もが安心して使え、地域防災の拠点となる庁舎～安全・安心な庁舎
ユニバーサルデザイン、災害対策機能強化、耐震性の確保。市民の安全と安心を支える技術を取り入れます。



親しみやすく象徴的な施設～白井市らしさの発信

提案1. 特産物(梨)をモチーフにした空間づくり

- ・梨棚コリドール: 新庁舎、旧庁舎前に梨棚をデザインモチーフにしたコリドールを設けます。両施設を結び一体感を演出し、バス停・身障者用駐車場・自転車置き場から雨に濡れず施設にアプローチできるシンボリックで機能的な空間づくりの提案です。
- ・梨ドーム: 新庁舎市民ホールにドーム型屋根を提案します。市民交流の場をやさしく覆う曲面の屋根は梨のシルエットにもつながる親しみやすい形態です。

提案2. 洗練された都市的な景観づくり

新庁舎はガラスの水平ラインとシンボリックに浮かぶ議場、屋上の設備目隠し庇からなるシンプルで洗練された外観とします。旧庁舎は陸屋根としスカイラインの調和を図ります。新・旧庁舎・保健福祉の3棟が融合された景観は白井～千葉ニュータウンのもつ都会的なイメージを象徴化します。

配置計画・グランドデザインの考え方

提案1. 施設間の連携に配慮した一体的配置

新庁舎は旧庁舎と保健福祉センターとの間に東西軸に配置します。旧庁舎と1棟化し、保健福祉センターとは最短距離での連絡が可能な計画です。

提案2. 様々な方向からアクセスできる動線計画

1棟化した庁舎には新庁舎北側エントランスと南側エントランスを新設し、保健福祉センター北側エントランスは庁舎との共用エントランスとして改修します。駅や文化センターとのアクセスも確保した利用しやすいアプローチ計画です。

提案3. 効率良く利用しやすい駐車場計画

庁舎北側駐車場は既存利用とします。保健福祉センター北側駐車場は効率の良いレイアウトに変更し、イベント広場横は現況縦列駐車を改善した駐車場を設け、ともに駐車台数を増やす計画です。庁舎前にはバス4台分の駐車スペースと身障者用駐車場を既存とあわせて6台確保します。新庁舎、旧庁舎、保健福祉センターのメインエントランスからそれぞれの駐車場が近く利便性の高い計画です。

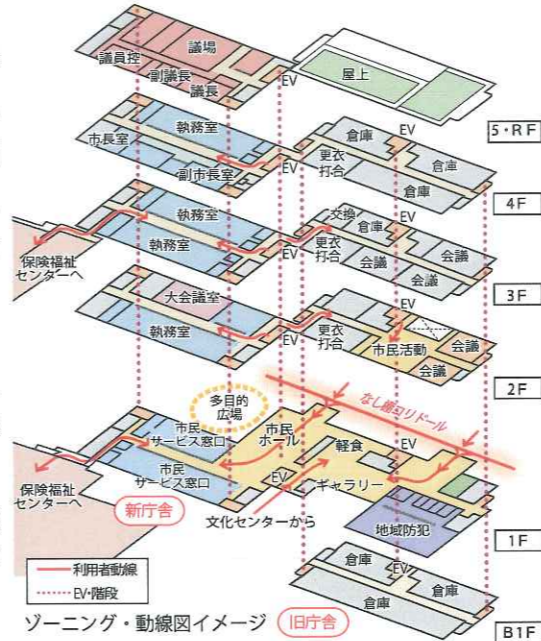
提案4. 梨棚コリドール～安全性・利便性の高いアプローチ

庁舎前に設けた梨棚コリドールは、車寄せ・バス停・身障者用駐車場・駐輪場と施設を結ぶ安全で利便性の高い屋根付歩道です。

利用しやすく働きやすい平面計画～新・旧庁舎の1棟化

提案1. 明快なゾーニングとセキュリティデザイン

新・旧庁舎の1棟化と単純で明快なプラン・動線計画により、利用しやすく管理しやすい計画とします。市民サービスの要となる1階窓口はワンストップサービス窓口を市民ホールに面して設けたわかりやすい計画です。開館時間の違いや時間外利用に対応できる明確な執務ゾーン区画により情報セキュリティの確保を徹底します。

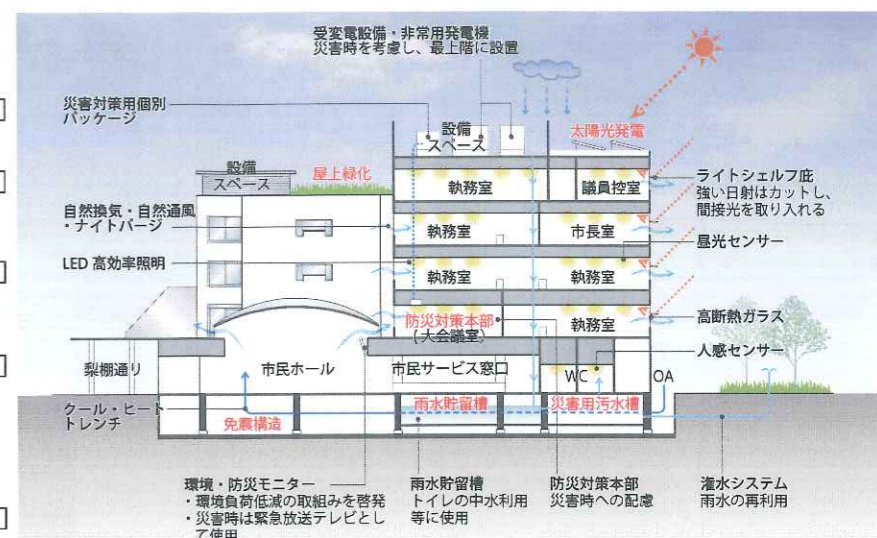


提案2. 行政機能の連携を促す計画

新・旧庁舎の1棟化と保健福祉センターとの1、3階屋内接続により行政機能の連携を促す計画です。新庁舎側に執務室、重要書庫、相談室からなる執務ゾーンを、旧庁舎側に近接して一般書庫・倉庫、職員更衣室・打合せ室を設けた効率的で働きやすい計画です。

省エネルギーで地球にやさしい庁舎～LCCO2を削減する計画

市の温室効果ガス排出削減目標を踏まえ、パッシブメインな環境配慮型庁舎づくりを考えます。



環境配慮・BCP庁舎断面イメージ

